

議 長	副議長		
			 

文教福祉常任委員会視察研修報告書

令和 6年10月15日

大口町議会 議長 江口 昌史 様

大口町議会 文教福祉常任委員会

委員長 仙 田 王 一



文教福祉常任委員会視察研修の結果(状況)は、別記(別紙)のとおりです。

記

1. 実施日時 令和6年10月8日(火) 13時00分～15時00分

2. 視察場所 大阪府豊中市 社会福祉協議会

3. 視察者 文教福祉常任委員会 委員長 仙田王一

同 副委員長 酒井一平

同 委 員 佐名かよ子

同 委 員 飯田正志

同 委 員 社本與七

同 委 員 江口昌史

同 委 員 大竹伸一

同 委 員 齊木一三

4. 視察内容

・「豊中あぐり」の活動について

・岡町菜園、岡町第二菜園、地域共生ホーム「和居輪居」の見学

5. 特記事項

急速に進んでいる高齢化、定年後の男性を孤立させない。いかに地域社会に参加させるか、男性の「居場所と役割づくり」を模索。そして「農業を通して地域とのかかわりを持ってもらう」ということから2016年、宅地を耕し、農園を作り、野菜を栽培し、収穫して直売するという地産地消イベントや、地域福祉に参加する都市型農園「豊中あぐり」を立上げた。

『人と人とのつながり、ふれあい、認め合い、支え合う共有空間(コモンズ)を創造することで、社会参加(特に男性)を促進し、地域福祉の担い手づくりを目指す。』の活動理念のもと、

- ・都市型農園の運営と管理、収穫された野菜の直売
- ・ユニバーサルファームとしての運営(認知症や障害のある人など誰でも参加できる農園)
- ・農業の6次化への挑戦
- ・移動販売車(マルシェ号)での販売と高齢者の安否確認
- ・地域福祉活動の担い手の養成(小学校毎の福祉市委員会への参加)
- ・豊中市社会福祉協議会の行う活動に対する協力

以上が主な活動である。

現状、菜園は8ヶ所、栽培品目は約60種類、会員は150名で、収穫した野菜は朝市、移動販売、子ども食堂への提供等、季節毎のイベントの開催による子供達、外国人、認知症の人や介護の方とのコミュニケーションの場づくりなどを行っており、各要人や団体視察、新聞・TVや雑誌社からの取材も受けている。

今回の視察については、「豊中あぐり」が男性のみで構成されている、スタートから8年間で菜園も増やしている、こうした活動とその継続がどのように行われているのか学ぶことで、本町においても男性のサークル・団体への参加率が低いことや、サークル・団体の維持継続に苦慮していることなどを改善するためのヒントとなり、より多くの高齢者の健康増進につながり、「予防福祉」実現の一助となること

を期待し行った。

視察において確認できたことは、

- ① 男性が定年を迎えるまでは、主に会社勤務をしていたため、目的がない事への参加はしない、自分で腹落ちしないと動かないなどの考え方である。
- ② 男性は、女性と一緒に活動することで、指示されたり、やらされ感があり、良いように使われる感覚になる。

これらの理由により、男性のみの団体とした。

次に、なぜ都市型農園としたのかについては、月1回や週1回では会社勤めだった人には居場所にならない。そして継続するには毎日何かある環境が必要であるという理由からである。

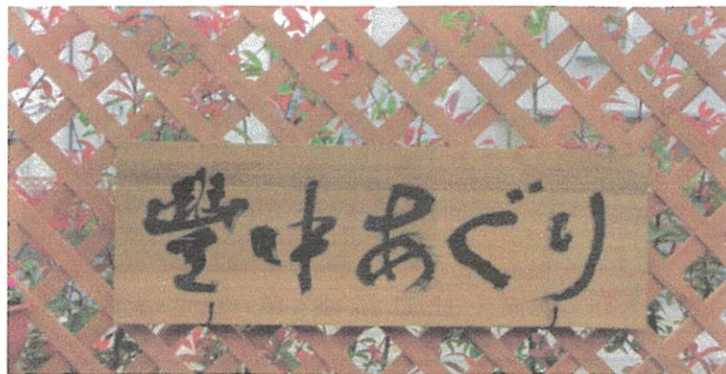
このような条件、環境から都市型農園を作ることで、居場所や役割づくりを実現した。そして、この活動への参加者からは、この活動が健康づくりにつながっている事を聞いた。

現状において「豊中あぐり」は、冒頭の活動により、豊中市社会福祉協議会の中核団体となっており、地域福祉活動やまちづくりに大きな貢献をしている。

本町においても、多くの団体が日々活動し、大口の福祉を始め、まちづくりに貢献いただいているが、豊中市においては、そうした多くの団体(資源)をうまくコントロールして、効率よく目的を実現しており、そのためのコーディネーターの必要性を感じた。このような視点から、文教福祉常任委員会の今年度の目標である「予防福祉」について、改めて本町においても、その在り方を考えていきたい。

※「豊中あぐり」資料は別添参照。

以 上



豊中あぐり開会宣言

人と人のつながりが薄くなった地域社会を結び直すには世代を超えて男女問わず社会に参加することが求められています。多くの女性たちは福祉活動やボランティア活動を通じて社会参加しているのに比べ、特に高齢男性の地域貢献という名の社会参加はやや遅れがちです。

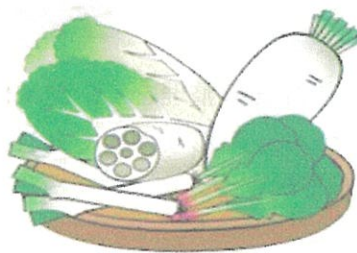
趣味を活かした文化学習活動や食事会や配食サービスなど女性を中心とした地域活動に参加することに男性たちは戸惑っているようです。そこでこの「食」を通じたまちづくり活動はできないだろうか考えました。空き地を畑にかえる仕事、農地で食材を生産する仕事、野菜など食材を食事会や食事サービスに提供する仕事なら男性高齢者の生きがいづくりに適しているのではないかとひらめきました。

都会の真ん中にある自然とふれあう癒しの空間、都市型農園の誕生です。人間の営みとして植物を生産する都市型農園は、私たちが失ってしまったコモンズ(共有地、共有空間等)を取り戻す取り組みなのです。農作業を通じてふれあい、認め合い、支え合う共有空間こそ会社人間だった男たちの解放空間になることでしょう。

都市型農園は協働作業で耕さなければなりません。農業をアグリカルチャーと言いますが、まさに耕さなければ、人と人との新しい関係を耕さなければ、福祉のまちづくりの拠点にはならないでしょう。私たちは、この都市型農園づくりが少子高齢時代に適合した町づくりの方法として、市民参加による福祉コミュニティづくりに発展することを願っています。ここに、豊中市における、いや全国に先駆けて、都市型農園づくり運動の発祥の地として永く広く記憶に留まるよう「豊中あぐり」を持続的・発展的に運営することを誓います。

2016年4月23日

豊中あぐりプロジェクト運営委員会



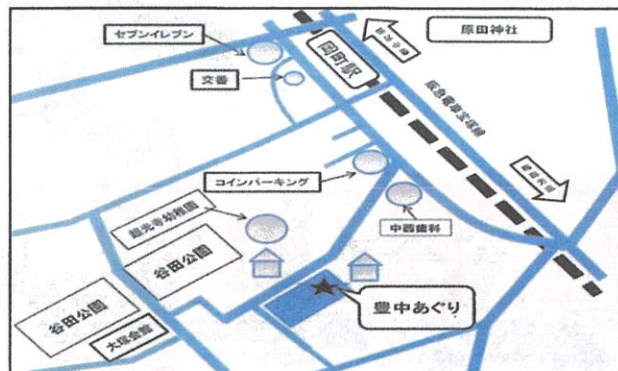
豊中あぐり会員募集

◎豊中あぐり会員募集

活動に参加していただく会員です。
個人会員 年会費 2,000 円
団体会員 登録人数×2,000 円
保険代・ユニホーム代含む

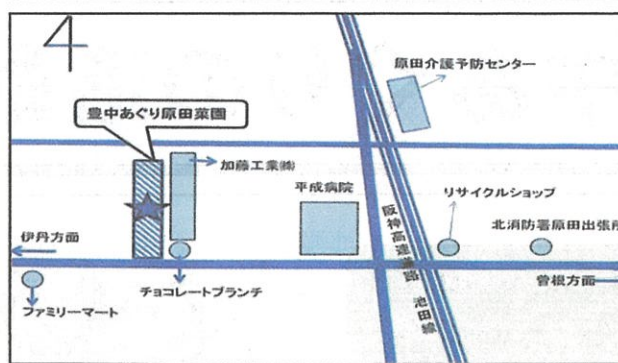
◎豊中あぐりサポーター会員募集

豊中あぐりプロジェクトの趣旨に賛同いただき資金の応援をいただく会員です。寄付をいただきましたら会報と野菜などをお届けいたします。(一口 10,000 円 から)



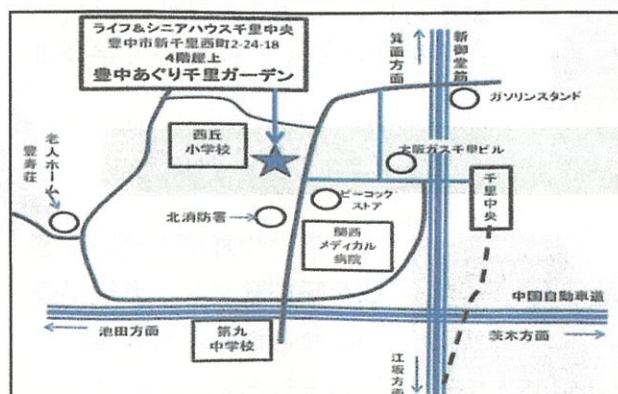
【豊中あぐり岡町菜園】

住所：豊中市岡町南1-11-25



【豊中あぐり原田菜園】

住所：豊中市原田中1丁目17-6



【豊中あぐり千里ガーデン】

住所：ライフ&シニアハウス千里中央4階
豊中市新千里西町2-24-18

農業を通じた介護予防
一緒に楽しみませんか！



豊中あぐり

都市型農園を拠点に人と人のつながり、ふれあい、認め合い、支え合う共有空間（コモンズ）を創造することで、社会参加（特に男性）を促進し、地域福祉の担い手づくりを目指します。

【事務局】

社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会
大阪府豊中市岡上の町2-1-15
(豊中市すこやかプラザ内)

TEL 06-6848-1279

FAX 06-6841-2388

豊中あぐり

これまでの歩み



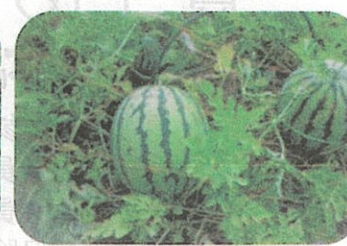
平成 28 年 4 月 空地



4 月 開墾



7 月 きゅうりの収穫



8 月 すいかの収穫



9 月 畑 4 畝に冬野菜を定植



11 月 畑 4 畝 白菜・大根など

豊中あぐり塾（5 月・9 月）岡町菜園 （夏・秋・冬野菜の作り方と地域福祉の勉強会）



← 支柱の設置と
なすの三本仕立て、
ピーマンの整枝の
指導の様子。



収穫感謝の集いで
使うソーメン流しの
竹づくりの様子。



（豊中市の竹を利用しています）

子ども食堂へ野菜をお届けしました

あぐり岡町菜園で栽培した野菜と
スイカを校区福祉委員が開催する
子ども食堂へお届けし、スイカ割
りを楽しみました。定年後のシニ
アと子どもたちの交流にもなりま
した。



豊中あぐり原田菜園・千里ガーデン・他 （田んぼ・じゃがいも畑・さつま芋畑など）



空港と隣接する土地を活用させてい
ただき、稲作・さつま芋畑・じゃ
がいも畑に挑戦。お米の収穫・じゃ
がいもがコロケになり、さつま芋が
あぐり焼酎になり、農業の 6 次化に
も挑戦し、やりがいにつながって
います。

千里ガーデンは高齢者施設の屋
上で実施しています。



▲じゃがいもはあぐりコロケとして販売

▲さつま芋はあぐり焼酎になりました

豊中あぐりの活動

地産地消イベントの様子 （場所：生活情報センターくらしかん 1 階）



豊中市と近郊の野菜・竹炭その
他食品等の頒布を通して、生産
者と消費者の顔の見える関係と
コミュニティの形成が団塊世代
の生きがいにつながっていま
す。



葉付き人参が大人気！

第 1 土曜日に原田校区「遊友」でも朝市を開催し地域住民の方々に喜ばれています。

ボランティアの勉強会 車椅子・アイマスク体験



車椅子の操作方法やアイマスク体
験を行い、当事者の気持ちに気づ
き、ボランティアについて学びま
す。



ミニデイサービス利用者と一緒に収穫体験



土の臭いや野菜の臭いは感
性呼び覚まし、表情が豊
かになる様子を目の当たり
にしました。



視察対応の様子

塩崎恭久厚生労働大臣が「我が事・丸ごと地域共生社会」
の先進地として豊中の地域活動とコミュニティソーシ
ヤルワーカー(CSW)の取り組みの視察にこられました。

(2016 年 12 月)



CSW は課題の整理をし、地域住民は我が事のように
世話をし、みんなの力で丸ごと地域を支える仕組み
となっています。